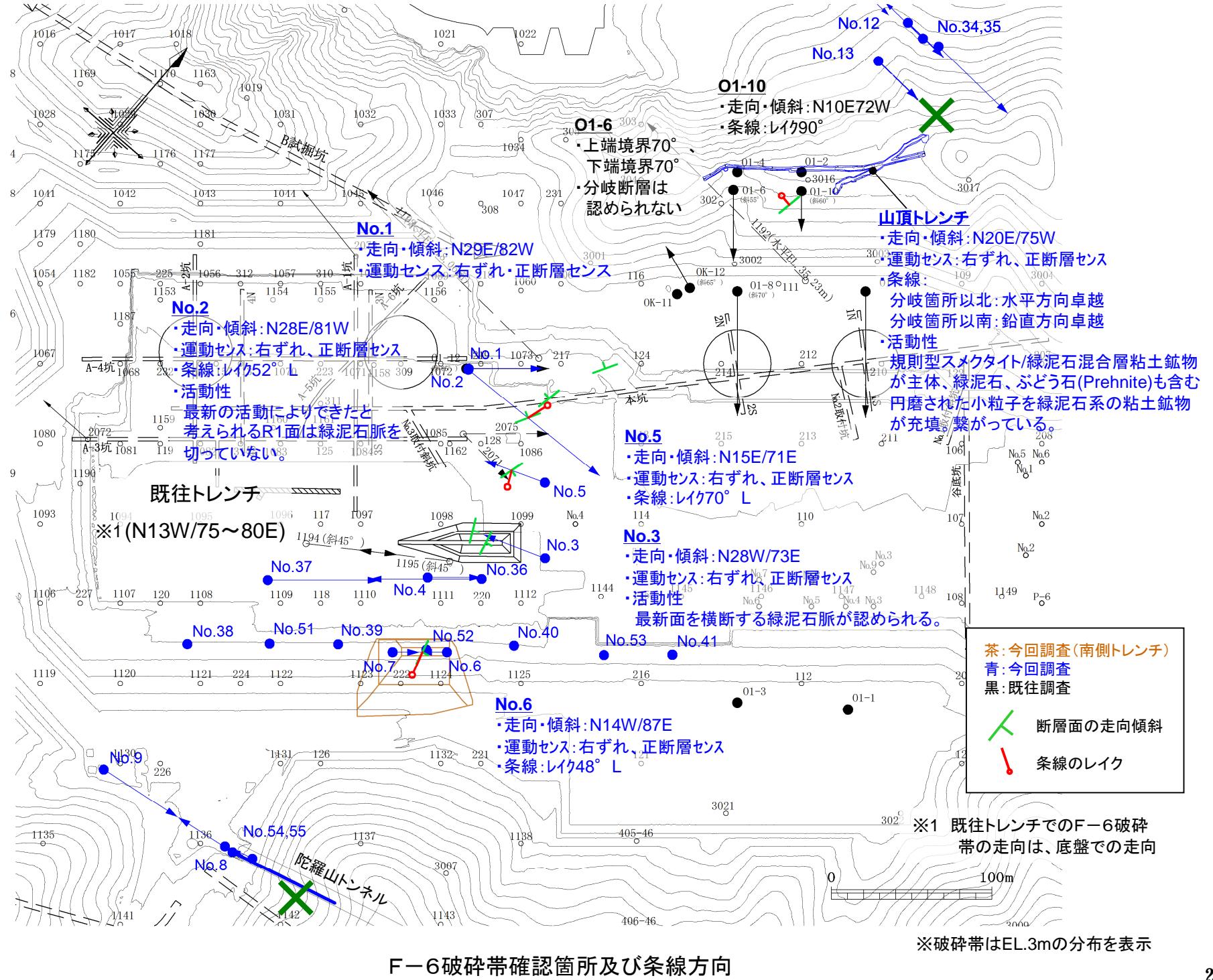
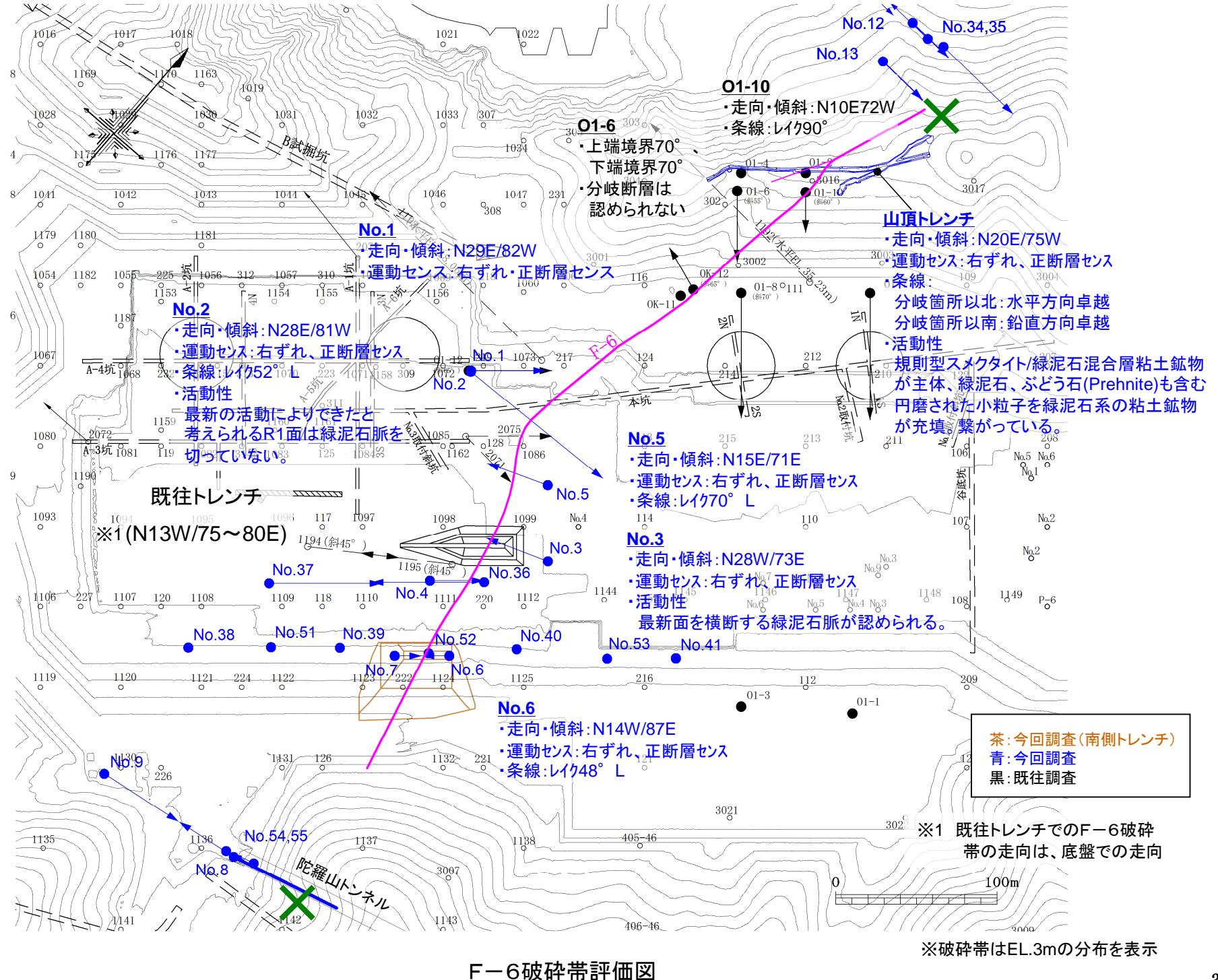


# 大飯発電所敷地内F-6破碎帯の追加調査 －南側トレンチ調査計画書－

平成25年3月28日

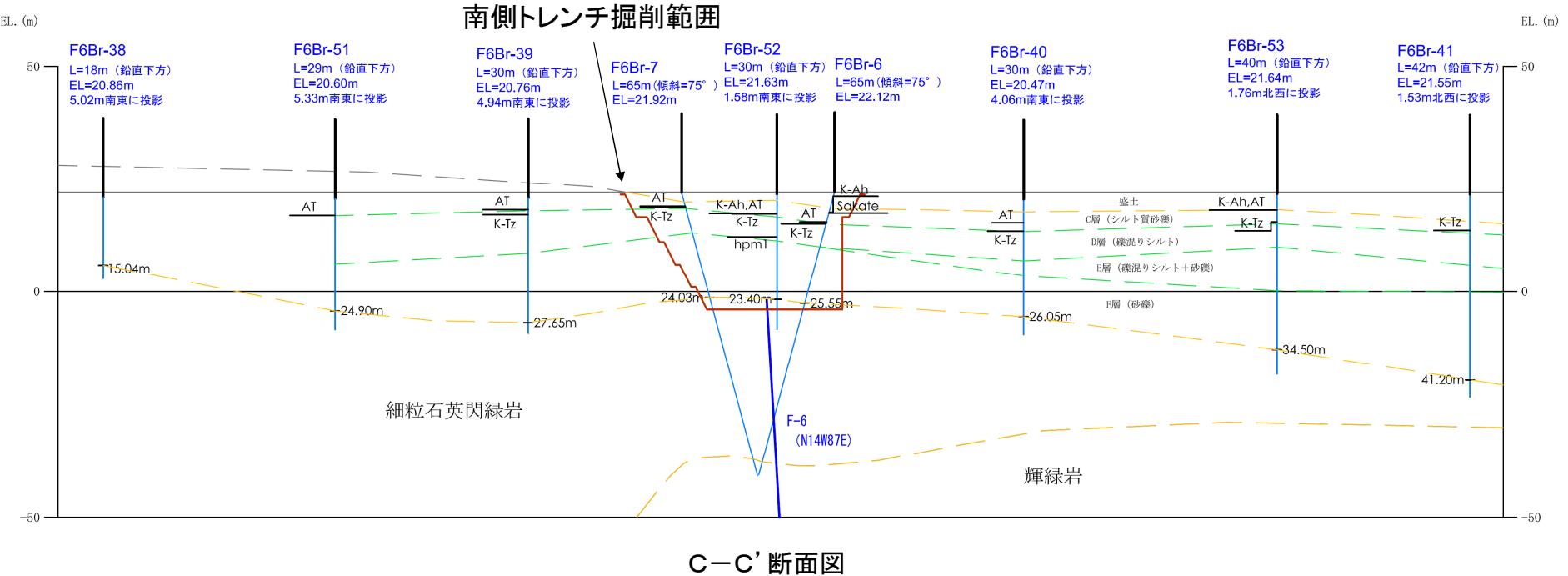
関西電力株式会社





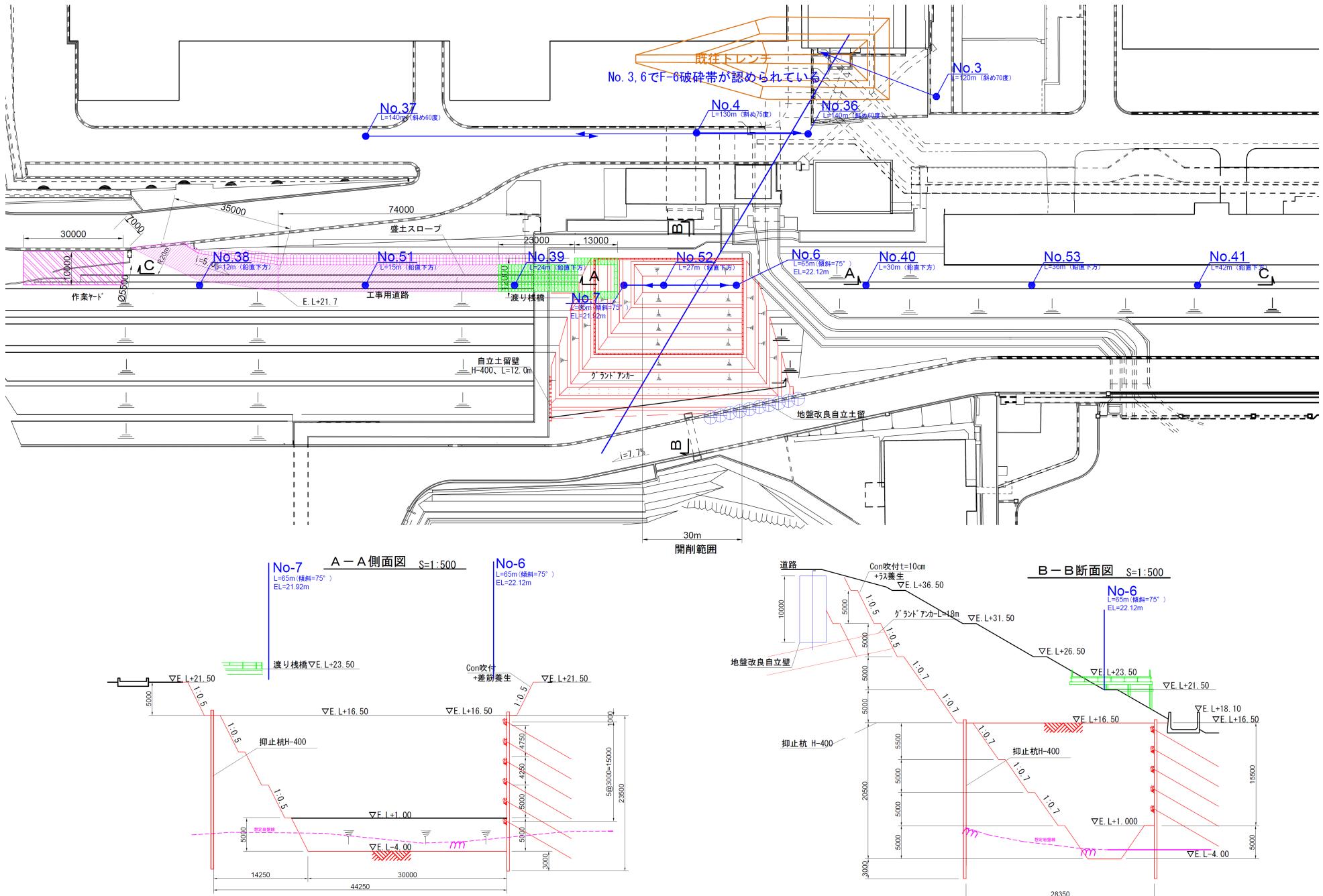
地点 (傾斜角)	深度 (m)	標高 (EL.m)	性状	幅 (cm)	走向・傾斜	運動センス				破碎帶構成物質 (XRD分析結果)	電子顕微鏡観察	備考
						CT	条線 (レイ)	研磨片	薄片			
山頂トレンチ	—	71~78	角礫状	概ね10~80	N20E/75W		分岐箇所以北: 水平方向卓越 分岐箇所以南: 鉛直方向卓越			規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物が主体、 緑泥石、ぶどう石 (Prehnite)も含む	円磨された小粒子を 緑泥石系の粘土鉱物 が充填。繋がってい る。	
O1-10 (60°)	36.20	40.01	角礫状		N10E72W	—	(90°)	—	—	規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物が主体		
O1-6 (55°)	69.55	5.61	角礫状		上端境界70° 下端境界70°	—	—	—	—			
No.1 (70°)	120.10~ 121.30	-103.10~- 104.22	角礫状	80	N29E82W	不明瞭	—	正断層	右ずれ	規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物が主体		
試掘坑	—	約+3		30	N10E80W (N20W/65E)	—	—	—	—			
No.2 (65°)	83.20~ 83.50	-65.63~ -65.91	粘土伴う 角礫状	15	N28E81W	右ずれ 正断層	右ずれ 正断層 (52° L)	—	右ずれ 正断層 ※1			※1:最新の活動によ りできたと考えられる R1面は緑泥石脈を 切っていない。
No.5 (60°)	28.50	-15.28	角礫状	5~7	N15E71E	右ずれ	右ずれ 正断層 (70° L)	—	右ずれ 正断層	規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物が主体		
既往トレンチ	—	約±0		約60 (北西側、図読) 約30 (南東側、図読)	N13W/75~80E	—	—	—	—			
No.3 (70°)	79.50~ 79.80	-65.51	角礫状	23	N28W73E	正断層	—	正断層	右ずれ 正断層 ※2	規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物が主体		※2:最新面を横断す る緑泥石脈が認めら れる。
No.6 (70°)	52.20	-28.30	角礫状	0.1~1	N14W87E	右ずれ 正断層	(48° L)		右ずれ 正断層	規則型スメクタイト/緑泥石 混合層粘土鉱物、緑廉石 を含む		

- 試掘坑及び既往トレンチ付近で実施した今回のボーリング調査により、F-6破碎帯は、試掘坑付近ではNNE-SSW走向で高角西傾斜、既往トレンチ付近ではNNW-SSE走向で高角東傾斜を示し、右ずれ正断層センスを示す。
- この特徴を有するF-6破碎帯は、試掘坑から北側には山頂トレンチ北端まで、試掘坑から南側にはNo. 6ボーリングまで認められた。
- 山頂トレンチ以北のNo. 13ボーリング、及びNo. 6ボーリング以南の陀羅山トンネルでは、F-6破碎帯の特徴と整合する破碎帯は認められない。
- 以上より、F-6破碎帯は山頂トレンチからNo. 6ボーリング付近まで連続的に分布すると評価。



- F-6破碎帶は、No. 6ボーリングの深度52.20mで、幅1cm程の固結した細粒石英閃綠岩中の角礫状破碎部(N14W/87E)として認められた。
- F-6破碎帶周辺で実施した群列ボーリング調査の結果、K-Tz火山灰(約9.5万年前)が広く分布していることが認められた。
- また、F-6破碎帶直上付近のNo. 52ボーリングでは、hpm1火山灰(約23万年前)も認められた。
- 以上より、既往トレンチ南側斜面付近には、上載層によるF-6破碎帶の活動性評価が可能な地層が分布していることが分かった。

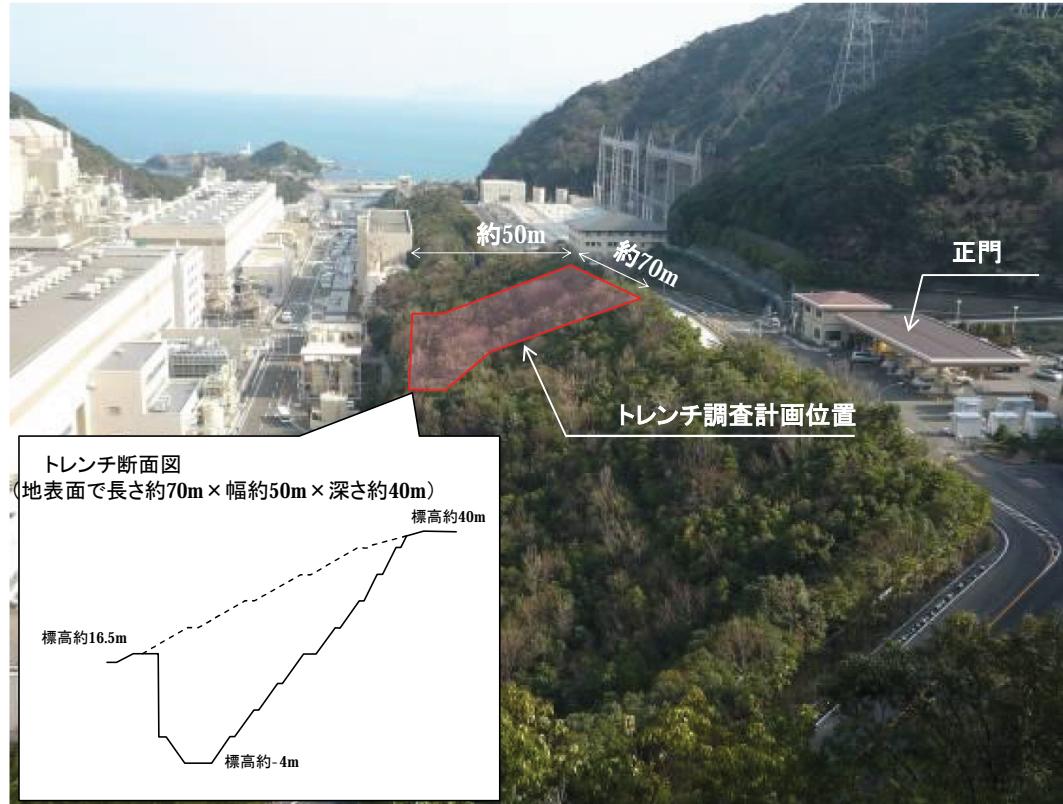
略号:火山灰名(年代)
K-Ah:鬼界アカホヤテフラ(7.3ka)
Sakate:阪手テフラ(16ka)
AT:始良Tnテフラ(26-29ka)
K-Tz:鬼界葛原テフラ(95ka)
hpm1:大山h1テフラ(230ka)



F-6破碎帯の連續性検討結果及び群列ボーリング調査結果を踏まえ、追加のトレンチ調査を実施する。

### 南側トレンチ計画図(平面図)

## 調査位置写真



## 調査工程



※調査内容及び調査工程は、原子力規制委員会の指摘を踏まえ、必要に応じて更なる追加掘削等を検討し、変更となる場合がある。